

令和5年度足柄高等学校第1回学校運営協議会 会議概要

令和5年6月14日(水)
足柄高等学校 会議室

足柄高等学校の概要について(校長)

○令和5年度前半の学籍状況について

○令和5年度の教育課程表について

○令和5年度の進路指導実績について

令和5年度は、4年制大学への進学率が昨年の62%から10%減少し、52%となった。学校としては、10%近く減少した原因・背景を考えたい。

その一方で、専門学校への進学率は増加している。この要因についても考えたい。

1年生の時点では生徒の6割が4年制大学への進学を希望しているため、最終的にはこの割合に近づけたい。

○令和5年度の教科外活動 実績について

学校行事を、コロナ前の規模に戻していきたいと考えている。

○スクールカウンセラー(SC)の活用状況について

○令和5年度入学者選抜について

目標は「志願者数の増加」。

特別募集の生徒数は最大で63名を想定しているが、アフターフォローのことを考慮すると1学年13人程度が限界と考えている。

第一次選考の「学習の記録」と「学力検査」の割合が4:6となっている。4年制大学への進学率増加を見据えて、学力検査の比率を多めに設定した。

2次試験も同じ理由で学力重視となっている。

○令和5年度の学校経営における重点事項について

- 1 「グループ業務の中に意識して取り入れて頂きたいこと」の「次の4年間の教育目標の作成を意識した業務」について
- 2 「今年度、何かしらの結果を求められることについて」
- 3 「インクルーシブ教育実践推進校関係」について

協議 令和4年度 学校評価報告

・教務グループ(水上総括教諭)

スタディサプリの利用を促進させた。課題を配信し、よりやる気のある生徒は自分で動画の視聴等を行っている。3年生もよく動画を視聴している。

今後、自宅でもクロームブックをもっと活用していけるようにしたい。

主体的な学びを引き出すための課題探究活動を、授業内外で行った。

・生徒会グループ(高橋総括教諭)

コロナ禍の影響があったが、何とか行事を行うことができた。今後、行事を元の状態に戻していきたい。部活動の加入率は64.5%だが、数年前と比べると減少している。

行事は教員が先行するのではなく、生徒が動く形で復活させていきたい。

部活動については、地域移行の傾向が出始めている。現時点では、高校で部活動をやりたい生徒のためにも残していく方針である。

- ・生徒支援グループ（長屋総括教諭）
 - 指導と支援の一体化を重視しスピーディーな対応を重視した。同時に SC・SSW との連携等丁寧な対応も行った。
 - コロナ禍で講演会等ができなかったため、今年は元の形に戻していきたい。性教育講座や交通安全教育、スクエアドストレイト等を行っていく。
 - SNS のトラブルに対して、粘り強く指導・支援を行う。生徒の SNS に対する考え方を変えていく。
- ・進路グループ（桐生教諭）
 - 総合選抜型の割合が前年度から 10%減少した。コロナ禍で大学見学が十分にできなかったこと、定員がそもそも足りていなかったこと等が要因か。
 - 特別募集の生徒の進路に関しては、企業開拓および連携を行った。
 - 今年度は、一人ひとりの進路希望の実現を目標とする。進学意識の高い生徒に対しては、専用のクラスルームを作り、資料を配信する等の取り組みを行っている。
- ・情報管理グループ（高橋総括教諭）
 - 部活動体験や地域に向けた HP 作り、校内パノラマの作成等を行った。
 - ICT 機器の活用マニュアルを作成し、使いやすくしようと考えている。
- ・管理運営グループ（奥村総括教諭）
 - 南足柄市と連携して避難訓練を行うことができた。
 - 学習環境を整備していきたい。ロッカーやドアの整備を行っていく。
 - 防災面で、より地域と連携していきたい。避難所としてスムーズに動けるように、また市に市民の要望を伝える場として機能できるようにしていく。
- ・管理職より（副校長）
 - 不祥事を防止するために、風通しの良い職場をつくり、情報交換をこまめに行っていく。
 - 教員の年齢層が大きく二つに分かれているため、管理職がその橋渡しを行っていく。

質疑（○：委員 ●：学校）

- 主体的なキャリア教育について、生徒の反応はどうか。
- 特別募集の生徒が、夏休みに西部総合技術校に行って授業を受け、有意義な時間となったようだ。今後も生徒に周知を徹底していく。
- 特別募集の生徒は進路が決まりにくい傾向があり、技術校の取組みがたいへん助けになっている。
- 自分で SOS を出せない生徒の声をどう拾っていくのか。小中では、クローズドブックを使ってアンケートを行う計画が出てきている。
- SSW 等と連携して、本人の環境に対する働きかけを行っていく。場合によっては SSW と一緒に個別訪問等も行うことが考えられる。
- スタディサプリについてももう少し詳しく説明してほしい。どのように家で活用させるのか。どのように評価するのか。
- 動画が配信されており、小中レベルから大学受験レベルまで揃っている。基本的には高校レベルの動画を視聴させ、そこに確認テストを組み合わせている。
- 評価は動画の視聴履歴と確認テストの結果で行い、連動課題の配信も行っている。「おすすめ動画機能」により、それぞれの生徒に最適な動画等が配信される。得意をのばし、苦手を克服することができる。
- 部活動の実態について、高校全体ではどうなっているのか。
- 高体連、高文連等の大会等については、外部のチームが入ってくるという流れはあまりない。引き続き学校単位で行っている。

- 中学校の部活動では部員が減ってきている。働き方改革の問題もあるため、少しずつ地域に移行していくのではないか。
- その可能性もあるが、学校における部活動の役割は大きいと考えている。
- 中学校の部活動の実態はどうなっているのか。
- 中学校もこれまでと大きく変わることはない。土日の部活は他校と合同にして、指導できる人を派遣したりしている。令和8年度をめぐりに地域移行する可能性がある。ただ、指導者が不足している現状もある。
- 専門学校への進学について、具体的な内訳はどうなっているのか。
- 美容やウエディング、情報系が比較的多い。大学を一般受験する方向で考えていたが、難しくなって専門に切り替えるパターンもある。
- 民間企業への就職が昨年に比べて増えている。企業の募集が多かったことが要因ではないか。
- 「入選不祥事防止研修」とは何か。
- 入選業務の中で間違いが無いように、またそれ以外の不祥事防止について研修を行う。業務の際にヒヤッとしたことを情報交換する形で、職員が主体となって行う研修である。
- 地域との連携を今後も行ってほしい。7月30日に納涼祭があるが、軽音部に出演してほしいと考えている。4年前の台風の際には生徒が動いてくれたので、今後ももっと協力していきたい。
- 保護者が自治会の役員をやりたがらない傾向がある。地域での活動に向けた意識が薄くなっているのではないか。この意識を、行事を通して上げていきたいと考えている。
- 貯水池近くの車にボールが当たる被害が出ている。念のため、学校でも伝えてほしい。
- 自転車のヘルメットについて、自転車で登校する生徒が多い高校はあまりない。ぜひ足柄高校発で対策をしてほしい。
- 特別募集の生徒に対しては、今後もチームで対応してほしい。また、業務の思い切った削減も推進してほしい。

閉会（校長）

働き方改革の一環として、今年度はより思い切った業務の削減を進めていく。これに関しては、今後地域やPTAにお願いする可能性もあるため、ご協力願いたい。